

財政の健全化を図り更なる行財政改革を

平成19年度 施政方針①

町政運営の基本的な考えを岩田町長が表明

奥出雲町の平成19年第1回定例議会が3月2日から19日まで横田庁舎議場において開会されました。

今回の議会には、条例制定8件、平成19年度の予算案等が上程されました。

この中で、一般会計の予算規模は、国・県の厳しい財政状況の中ですが、要望の多い道路の改良、仁多地域への光ファイバーを敷設するケーブルテレビ事業、平成18年度に引き続き横田中学校大規模改造事業など新町の一体感を醸成するため多くの事業を積極的に進めることとしており、県内町村ではトップとなる総額152億5千万円の大型予算となりました。

議会初日には岩田一郎町長が、議会の開会に先立ち平成19年度の施政方針演説を行いました。

その要旨を要約、抜粋してお知らせします。



活力ある産業の振興

農業の振興

昨年は比較的好天に恵まれたものの田植時期の低温、日照不足や七月に発生した豪雨災害の影響が甚大で水稲の作況指数は九十六となり、減収の年となりました。

しかし、平成十九年産米につきましては、県によると本町の作付面積は増加し、昨年を上回る七千五百九十一トンの配分を受ける見込みであります。

このことは、農家の皆様の生産意欲をより高めるものと安堵しております。

今後も引き続き仁多米ブランドとして「売れる米づくり」を目指し、安全・安心でおいしい米づくりを推進し、農家所得の増高を図りたいと考えております。

販売につきましては、カントリーエレベーターでの粉のままの低温貯蔵、色彩選別機による玄米と白米の二段階選別や今搗米として商品の差別化を行い全国ブランドとしての仁多米の有利販売に努めて参ります。

本年十一月には「全国米・

食味分析鑑定コンクール」を本町で開催することとしております。

全国の米どころから生産者等約四百名がここの奥出雲町に集まり、各県産地の米の食味を競う大会であります。

全国ブランド「仁多米」を宣伝する絶好の機会でもあり、生産農家の皆様に高品質の米を生産して頂くよう指導会等を予定しております。

また、本年から始まります新たな経営安定対策により、担い手育成・確保が喫緊の課題となっております。



全国ブランド 仁多米

策においては、担い手となる認定農業者や農業法人等、一定条件を備えた集落営農組織への支援に限定されることとなりますので、JAの独自の取り組みと併せ集落営農組織の育成、特定農業団体への移行、法人化など組織化の推進に引き続き関係機関と一体となつて取り組んで参ります。

また、生産調整推進のため国から交付されます産地づくり交付金については、引き続き担い手支援策として活用頂くこととしていきます。

さらに、新しい経営対策の一環としては「農地・水・環境保全向上対策」につきましても、これまでの中山間地域等直接支払制度、三億二千万円に加え一億三千万円の交付予定であり、全町挙げての取り組みを行い、地域の特色ある事業等に有効に活用して頂くよう推進して参ります。

畜産振興

食の安全・安心が叫ばれる中、アメリカ産牛肉の輸入が再開されたものの、国産牛肉の安全性が消費者に再認識されたところがあります。

商工業の振興

全国的に景気が回復したと言われる中、本町のような中山間地域への波及感や薄く、特に中小企業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にあります。

こうした中、本町では本年四月一日に仁多町・横田町両商工会が合併し、「奥出雲町商工会」として発足することが決まっておりますので、町内商工業の発展については新商工会と連携を密にしながら各種商工業事業資金への預託をはじめ商工会に対し経営改善普及事業等の財政支援を行い、地域経済の活性化事業を推進して参ります。

観光振興

本町には、名勝天然記念物「鬼の舌震」に代表される恵まれた自然やたたら製鉄をはじめとする歴史や文化を伝える記念館等多くの観光資源を有しており、毎年県内外から多くの観光客が訪れております。

国営開発農地の活用

農業構造改革交付金を活用して頂き、仁多特産市、横田だんだん市場等の産直市場へ積極的に出荷して頂くことで、農業所得の向上に努める考えであります。

昨年は新たに二社の企業参入があり、開発地での新たな特産となるサツマイモやブルーベリーなどの栽培が始まり、その営農の早期定着に向けた支援を引き続いて行うこととしております。

また昨年度に進めて参りました大型ハウスの整備が完了



高糖度のトマト栽培が行われている大型ハウス

特産振興

奥出雲町野菜生産組合では町の主要品目であるほうれん草、キャベツ、大根、トマト、アスパラ、メロン等を中心に生産振興を図っているところであります。

また、転作水田を利用しての生産につきましては、水田